

R5.1 教育総務課資料

川岸地区の幼保小中がつながる新たな学びの環境づくりについて

1. 小中学校間をつなぐ施設配置の可能性

川岸小学校の施設改修計画の検討にあたり、県道下諏訪辰野線の拡幅により以前より広がった西部中学校の校庭の南側或いは北側を利用して、学校間をつなぎ、異年齢交流のできる多目的な施設等を設置することで、小中間の連携や交流がしやすい環境となります。

その他、両校の給食室を一体化した共同調理室を設置できれば、調理の効率化を図ることも可能となり、更に、学校間をつなぐ整備により、施設一体型小中一貫校や義務教育学校への移行が実現可能となります。

2. 幼児期からの学びの連続性を備えた環境づくり

川岸小学校の施設整備に向けた教室配置の検討においては、現在は分散している教室の配置等を再編することで、現在の校舎や敷地に余地が生まれます。

この場所に幼児教育や保育機能を併設することで、幼児期から小中学校までの子どもたちが同じ場所で育ち、学ぶことのできる、新たな拠点の創出につながります。

異年齢の子どもたちが日々交流しやすい環境づくりによって、少子化が進む社会にあっても、子どもたちに豊かな情操を育み、多様性に富んだ人間関係の構築につながります。これは、本市が大切にしている異年齢や異学年での交流活動「ピア・サポートプログラム」の視点においても有効な取り組みとなります。

【イメージ図】

